

## 研究テーマ：家庭学習時間の増加をどのようにすればよいか？

所属 高知県立安芸中学校  
氏名 西中 晋吾  
RG SH3

## 1. 研究の背景

県立安芸中学校は県立安芸高等学校に併設された併設型の中高一貫教育校である。そして県立安芸中学校は、将来安芸高等学校へ入学することを希望し、高校入試のない6年間のゆとりの中で、自分の個性を伸ばしたいと考える子どもたちのための学校である。特に国語・数学・英語については、基礎・基本の習得に力を入れ、時間割の工夫により授業時数が確保されている。今年で中学1年生から3年生までの3学年がそろい、部活動も本格的に活動ができ大会の方にも出場している。

各学年は2学級80人で、高知市以東の市町村にあるどの小学校からも入学できる。よって校区は幅広く、いろいろな生徒が入学してきているので、市町村立の中学校とは違った独特な雰囲気がある。3年生は1年生の時から英語の授業時数がしっかり確保されており、英語の力も全体的に高く、**CRT**の結果も全国比を上回っている。しかしその中でも得意な生徒もいれば苦手な生徒もいて、英語の学力差が開いているのが現状である。その開きを少しでもなくそうと日々取り組んでいる。

## 2. リサーチ・クエスチョン

「家庭学習時間の増加をどのようにすればよいか？」

## 3. 予備調査

## (1) 授業観察結果

全体的に落ち着いた雰囲気です。授業を受けることができている。しかし1日7時間授業があることから、午後になると疲れが見えるのも事実である。単語の意味・基本表現・文法事項については比較的理解できるが、家庭学習時間が不足していることから、文法の定着が図りにくいのが現状である。

## (2) 生徒の英語学習意識

1年次では英語に対して「興味がある」「好きだ」という意見が60%以上あったが、2年次ではその割合がそれぞれ30%前後まで下がった。

## (3) 家庭学習時間

結果として全体的には**CRT**で全国比を上回っているが、アンケートで英語の1日平均家庭学習時間はクラス平均で**38.97**分であった。

## 4. 仮説の設定

- (1) 英語が嫌になっている生徒が多いので、英語に興味をもたせたり、英語の重要性を訴えたりする。
- (2) 定期的にテストを実施し、テストの回数を増やす。
- (3) 宿題を出して、家庭学習時間の増加をねらう。
- (4) 入試問題を解いて英語を勉強する意識を促し、家庭学習時間の増加をねらう。
- (5) 小テストや定期テストで成績が良くなかった者は、再テストや長期休業期間中に補習を行う。

## 5. 計画の実践

- (1) 週1時間あるALTの授業では生徒が好きそうな活動を取り入れて、少しでも英語に興味をもたせるように試みた。また、授業で英語の重要性を話すのはもちろん、本校は中高一貫校なので、大学進学では英語が重要であるという話を高校生から直接聞くことができた。
- (2) 定期テストでは毎回2種類の英語のテストを実施した。
- (3) 宿題に出すプリントを最初は難しいものを出していたが、提出率が悪かったので、まず授業でプリントをして、そしてそれに似たようなプリントを宿題に出した。
- (4) 全国の入試問題が出ているテキストを購入し、授業や宿題に出して問題を少しずつ解いていった。そして、そのテキストを冬休みの重点的課題として宿題に出した。冬休み明けのテストを実施し、入試問題が解ける程度の力を付けたいと思っている。
- (5) 成績が良くない者には「再テストがある。夏休みや冬休みに補習がある。」という声かけをし、少しでも家で英語を勉強するように指示した。

## 6. 実践の結果

- (1) プリント提出率 … 

難しいもの→平均で約40%	工夫して出したもの→平均で約60%
---------------	-------------------
- (2) 家庭学習時間 … 

1学期→平均で38.97分	2学期→平均で39.72分
---------------	---------------

## 7. 実践の結果および結果の検証

- ・ プリントの提出率が20パーセント上がったのは良かったが、それともなると家庭学習時間があまり増えなかった。提出率が上がるのはもちろん、家庭学習時間の増加も視野に入れたプリント作成を今後試みなければならない。
- ・ プリントの提出率アップで、定期テストの平均点が2学期は1学期に比べて上がった。家庭学習時間にはあまり影響しなかったが、英語の力が少し付いているのが良かった。
- ・ 定期テストを今年から2種類することによって、定期テスト前の英語の家庭学習時間は増えた。ただし、これが普段の英語の家庭学習時間にはつながっていないことがわかった。3学期は基本問題から、さらに家で勉強しないと問題が解けないような応用問題を以前よりも多く解いていく方向に変えながら、3学期の授業の進め方を考えていきたい。
- ・ 生徒に英語の重要性を言ってきたが、あまり家庭学習時間の増加にはつながらなかった。これは「やろう」という意識はあっても、行動にはなかなか移せないからだろう。あらためて英語学習の難しさを再認識させられた。もう自分はやっても無駄だというあきらめも働いているように思える。しかし、少しでも興味を持って積極的に英語を勉強するように、今後特に英語が苦手な生徒には添削指導などをしていきたいと思っている。

## 8. 成果と今後の課題

5月から始まった授業改善プロジェクト研修は、やってみて本当に自分の役に立ちました。特に夏休みの研修期間は充実したものであり、とても良かったです。自分が設定した「家庭学習時間の増加」は良い成果を得ることができませんでしたが、これをまた今後も続けていき、生徒がもっと家庭で英語を勉強するようにがんばっていきたいと思っています。このような機会を与えてくれて本当にありがとうございます。